

6・10次世代国会行動参加者の感想より

声上げて、聞き合って、政治を自分ごとに

初めての参加

★全国に仲間がいて、

たくさんの方がパレスチナのPATCHなどをまわっていたり、各地でスタンディングをして



「地元の先輩会員から『国会行動へ行ったらいっぱいパワーをもらえるよ』と言われた。きて、本当にパワーをもらった」(宮城)



「命削って育てている子どもたち。他の国の人を傷つけたり傷つけられたりするような人生に絶対したくないと思って参加。帰ったらママ友に『国会行こう』と言いたい」(兵庫)

ばかり。実際に国会議員に要望や不安を伝えるという貴重な経験をありがたうございました。(青森)

★交流会では、うんうんとうなずくところがたくさんあった。政治参加は選挙だけと思っていた。行動は難しい堅苦しい感じかと思っていたけど、明るくて

びっくり。この雰囲気

を地元に戻って、伝えていきたい。(埼玉)

★今まで主権者教育を受けてきたことなかったんだなと実感しました。考えてみれば『伝えたいことを議員に直接届けに行く』ってどうやるのかも知らなかった。市井の民が姿を見せて要望を届けること

が大事。(神奈川)

★議員要請の中で、「福井でもデモをやっているんですよ」とお伝えしたところ、ほとんどの方が知らないよう

です。その微妙すぎる反応を見て、私は俄然やる気が出た。そして、

対話の重要性を痛感。対話と外交を蔑ろにする、高市政権を看過することはできません。これからも自分のできることを続けていこう。もっと準備と勉強をして挑みたい。(福井)

主張

原水爆禁止2026年世界大会が「被爆者とともに核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」をテーマに、8月3日〜9日、広島と長崎で開催されます。今年初めて「シエンダ1平等と核兵器廃絶運動」の分科会が企画されます。

出会った人と運動広げ 原水爆禁止世界大会の成功を

先日のNPT(核不拡散条約)再検討会議では、核保有国があくまで核軍縮に背を向ける一方、締約国の大多数が核軍縮の義務の履行を求め、核兵器の禁止・廃絶こそが世界の主流であることが示されました。秋の国連総会と第一回核兵器禁止条約再検討

会議へ、市民社会の運動でこの流れを大きく発展させることが重要です。北海道では、札幌駅地下スペースでとりくんだ高校生が描いた原爆の絵展と「平和の2署名」行動

この間、アクションで出会った人たちを仲間を迎えて一緒に運動にとりくみ、原水爆禁止世界大会と「核兵器なくそう女性のつどい」への参加をひろげ、成功させましよう。

次の行動へ

★参加すること自体にジェンダー的なたたかいはあるんだと実感しました。自身は15時

対話の重要性を痛感。対話と外交を蔑ろにする、高市政権を看過することはできません。これからも自分のできることを続けていこう。もっと準備と勉強をして挑みたい。(福井)



スタンディングにカエル登場！(東京)

病院に誕生させた「さつき班」



新婦人高知市支部の絵手紙展で。右端が中内さん(今年1月)

た新婦人の班も、絵手紙から始め、立ち上げました。先輩が「さつき班」と名づけてくれました。職場に班をつくって良かったことは、友だちが増えたことです。夜勤明けや出勤前、平日の日に班会を開き、多い時は20人くらいの仲間がいました。顔さえ知らなかった人たちと絵手紙を描きながらおしゃべりできるようになり、産前休暇に入れない看護婦がいると知るよう促すなどしました。絵手紙は、許可を取り病院のあちこちに展示しました。

聞き書き 母の歴史

高知県 中内理津子さんのお話 (11)

高知市民病院へ移った後、「(市職労の)女性部役員を」と誘われ、引き受けました。忙しさのあまり、弱い者を攻撃する職場の有り様を「許さないぞ」との思いからです。当時、看護婦は150人もいたのに、病院に看護婦の職場委員はいませんでした。病院での有給休暇の取得数を調べた時、驚いたのは、年間に2時間しかとっていない看護婦がいたことです。取得の理由は「子どもの家庭訪問」でした。組合の会議はむしろ、本庁であります。私は、女性部の部長として、有給休暇の届けは出さなくて、「〇月〇日、行きます」とだけ伝えて出席しました。部長と交渉し有給休暇をとって「中国平和の旅」(草の家主催)に参加するなど、率先して「休める職場づくり」を実践しました。病院にはなかつ